

防災から“ふ・く・し”へ

～新しいつながりを生む
「支え合う」地域をめざして～

大崎市古川清滝地区公民館

今日お話しすること

1. 社協とのつながり
2. 活動の核は「こどもぼうさい教室」
3. 活動のひろがりと生活支援
4. 福祉教育への取組み
5. まとめ

清滝地区について

大崎市と栗原市の境の北部丘陵地帯に位置する自然豊かな農村地域



清滝不動の滝

人口	1,100人強
世帯数	約440戸
高齢化率	48%

主な産業 稲作・畜産

困った事があれば、“自分達のことは自分達で何とかする”地区民性



地域力の維持が課題

古川清滝地区公民館



旧 小 学 校

体 育 館

公 民 館

学 童
保 育

公民館は、旧清滝小学校・学童保育と隣接

2012年4月から 清滝地区振興協議会が指定管理
今年度で4期 12年目

地区組織構成

清滝地区振興協議会

6 行政区長

社協支部長

消防分団長

警察駐在所長

子供会育成会長

体育協会長

女性防火クラブ長

民生委員児童委員

主任児童委員

- 地域支援コーディネーター
(高齢者支援チーム)

◎役割

- ・町内会組織
- ・地域づくりに関すること
- ・コミュニティ事業の運営実施
- ・**公民館運営事業監査・承認**
- ・**生活支援体制整備事業受託**



古川清滝地区公民館

館長(非常勤)

事務主任兼生涯学習主任

生涯学習推進員

事務補助員(非常勤)

計4名

◎役割

- ・公民館の運営及び事業の企画運営実施
- ・地域団体の活動支援
- ・地域づくりに関すること

旧清滝小学校の閉校

地区と合同の運動会は50年の歴史

小学校は、2021年3月閉校
30名強の子供達は、スクールバス通学へ



現在の旧清滝小学校

閉校から4年、跡地利活用は未定

地区で除草等の環境整備を行い、
今も子供達がいるような景観

1. 社協とのつながり

顔の見える関係性

支部長と支所との積極的で日常的な連携



歴代支部長の方々



民児協定例会に支所職員が継続的に参加



社協の紹介で丸森町筆甫へ合同移動研修

2. 活動の核は「こどもぼうさい教室」

きっかけ

2011.3.11 東日本大震災発生

安否確認マニュアルで、地区民の迅速な安否確認の達成
……時と共に風化する防災意識



子ども達と学ぶという視点の発見

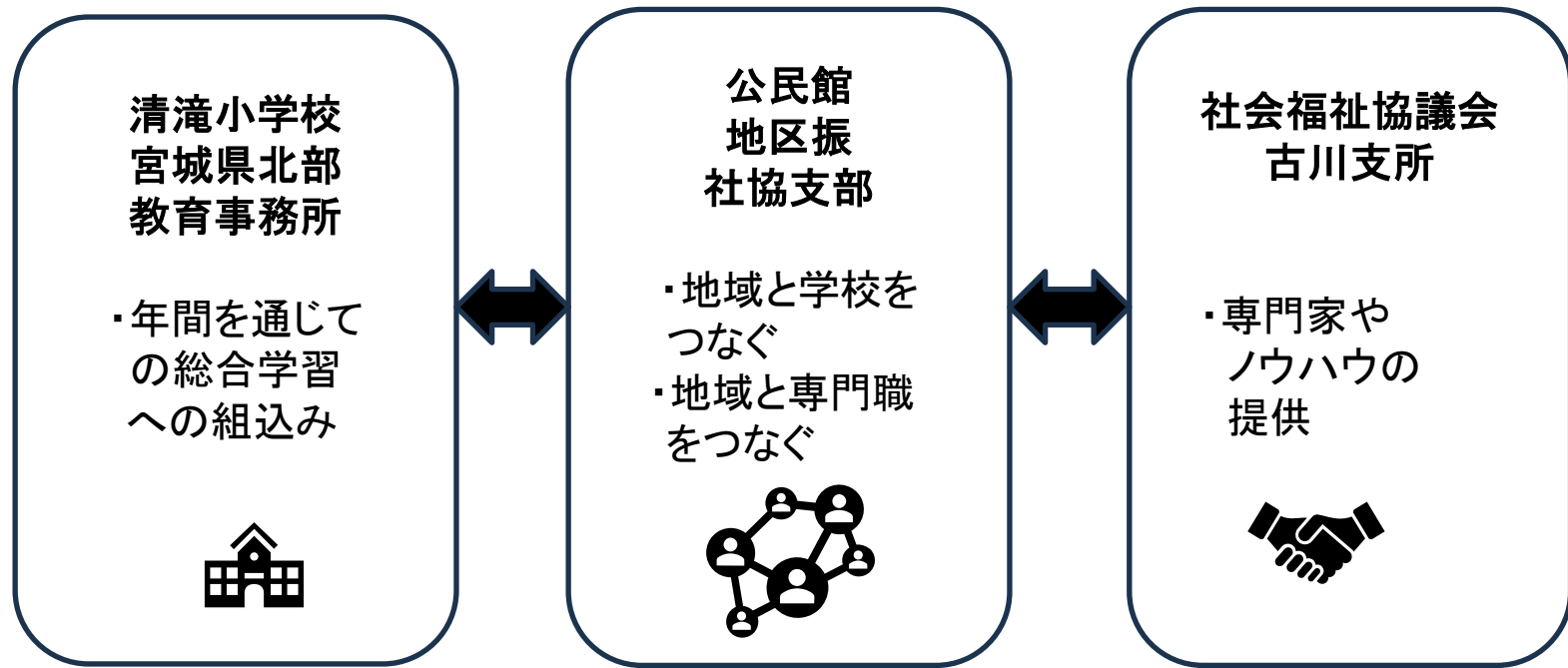
県教育事務所・中央公民館に事業化を相談

県教育事務所・**小学校**・**社会福祉協議会**との合同会議の実施



2014年「こどもぼうさい教室」が誕生！

7年間の協働体制



土
台

平時からの顔の見える関係性

年に1～2回の顔を合わせた会議と振り返り

社協職員による「こどもぼうさい教室」



防災ビンゴ



防災グッズ(新聞スリッパ)



防災ビンゴ



段ボールベッド組立て

きよたき防災デイキャンプ

・地域と学校との安否確認と情報共有



・子供達が作った防災カルタの体験



・社協職員によるサバイバル飯作り指導



アルミ缶でのご飯炊きを体験！



2回目の防災デイキャンプ



HUG(石巻日赤病院DMAT & 大崎市民病院DMATによる指導)



黄色いタオルは、無事のサイン



ジュニアリーダー指導のサバ飯作り

閉校後の変化と継続

2021年3月 清滝小学校閉校 こどもぼうさい教室終了

新型コロナの時期も重なり…

統合後の小学校とのつながりは希薄に

社協やDMAT(災害派遣医療チーム)とのつながりは続く…



2022年防災訓練・講師として参加



3. 活動のひろがり与生活支援

1) 高齢者支援与生活支援体制整備

閉校後に見えてきた地域の悩み

閉じこもりの心配

隣の家が遠い

農協の閉店

フレイルの心配

病院が遠い

買い物不便

この問題に対処するために・・・

大崎市が地区ごとに行う手上げ方式の

生活支援体制整備事業を受託（2017年～）

生活支援体制整備事業

- ・生活支援地域コーディネーター（SC）を配置
- ・公民館と協力して高齢者支援を実施
- ・高齢者支援チーム「きよサポ」を組織



生活支援地域コーディネーター（SC）



高齢者支援チーム
「きよサポ」

高齢者支援チーム「きよサポ」の活動

- ・デマンドタクシーの利用支援
- ・足腰ぴんぴん講座 ⇒ ルンルン倶楽部の支援



デマンドタクシー
ルート調査



乗車啓発パンフレット作成



ルンルン倶楽部支援

介護予防運動教室 「百歳体操」



- ・週に1回 DVDを見ながらの運動
- ・年に2回 理学療法士の指導

体操後の“部活”



出張公民館「心もカラダもルンルン倶楽部」

集会所をまわり、居場所づくりを兼ねた介護予防教室



社協からの会食事業紹介



翌月に社協の会食会開催⇒次年度からは地区全体へ波及

地区民の声

「近くに来てくれてよかった。久しぶりにみんなと話せた。」
「みんなと食べるとおいしいね！」



地域包括支援センター職員の
レクリエーション

大崎市・大崎社協・東北福祉大学 プロジェクト実践活動



心もカラダもルンルン倶楽部に東北福祉大生と市保健師が参加



清滝の
これからについての提言発表

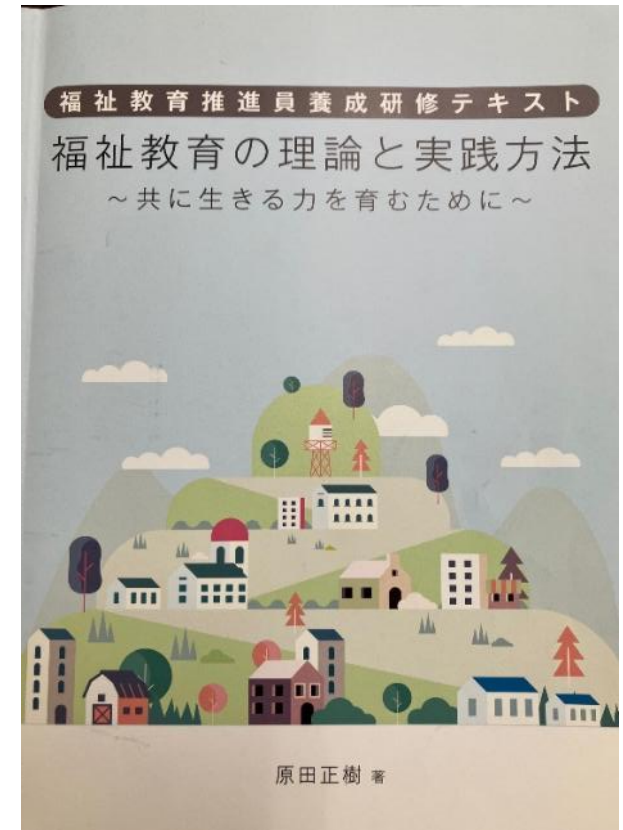
4. 福祉教育への取組

「福祉教育推進員養成研修」をリモート受講

講師の日本福祉大学 原田正樹教授の言葉
「福祉教育」が、大切にしてきたことは、

ふだんのくらしのしあわせ

このキーワードに強く共鳴。
社会教育との共通点を見いだした。



統合小学校

社協に小学校との間をつないでもらい、

昨年度から、統合後の小学校の4年生の
“キャップハンディ体験”の授業
に参加

授業に関わることで生まれる学校との
新しいつながり



福祉体験学習会議

と き：令和6年7月10日（水）
15時30分
ところ：古川北小学校

次 第

1) 参加者の自己紹介
北小学校
大崎市社協
清瀬地区公民館

プログラム ▶ キャップハンディ体験

思いやりの心を育む学習（小学校） ▶▶ 古川支所

福祉体験学習を通して障がい者や高齢者の暮らしを理解するとともに、思いやりや助け合いの心を育むことを目的に実施しています。また、福祉を身近に感じてもらい、福祉に対する関心や意識の向上を図っています。福祉体験では各校の要望に合わせて、車いす体験・白杖体験・高齢者疑似体験・福祉講話等の内容を組み合わせてプログラムを組み、実施しています。体験を通して高齢者や障がい者への優しい気持ちが育つきっかけになっています。

◀ 車いす体験
普段過ごす校内内で不便なところはないか体験しました。

高齢者疑似体験 ▶
ゴーグルやサポーターなどを装着して歩いてみました。

例 体験学習の流れ（3・4時間目）
[児童数：10～20名の場合]

10：40 開会行事
（体験内容・自己紹介等）
10：50 車いす体験
11：10 休憩・消毒等
11：15 白杖体験
11：35 休憩・消毒等
11：40 高齢者疑似体験
12：00 閉会行事
（体験の振り返り・感想等）

実践できる力を育む学習（中学校） ▶▶ 古川支所

5. まとめ

今までの活動の実践から得たこと

防災は共通の課題～人と人をつなぐ力があると実感～

- ・大人も子供も共に学びあい助け合える感覚
- ・リーダーは一人でなくてよい。
- ・専門家からの助けの重要性



※つないだその手は、
新しいつながりを生む

防災から “ふ・く・し”へ

みんなで支え合う地域づくり

清滝の“今” 地域を支える

～ 地区振・区長・民生委員児童委員の大きな力 ～

- ・区長・民生委員児童委員連絡協議会の開催（年2回）
- ・市内循環デマンドタクシー「ほたる号」運営委員会の開催
- ・行政区単位で行う「心もカラダもルンルン倶楽部」の開催支援
- ・旧小学校含む公民館付近の環境整備（年間）
- ・敬老会の開催



清滝の“今” 地域の防災運動会

専門家からヒントをもらい実現した



大人も子供もバケツリレー



こどもタンカリレー



DMATの上吉原さんは、
家族と毎年参加

一緒に遊びつつ、大事なことを
教えてくださいます

清滝の“今” こども達が地域の力に！

中高生になった「こども防災士達」が大活躍！



防災運動会の受付



炊き出し



こども縁日でも積極的に活動するボランティア

清滝の“今”「心もカラダもルンルン倶楽部」

地域の頑張りと協力



専門家に頼る勇気と大きな支え



公民館 ・きよサポ・社協 ・SC ・包括・市役所

専門家の皆さんは、共に歩む「仲間」
その存在に心から
感謝しています。



ご清聴ありがとうございました